

第3回 東京都通称道路名検討委員会

議事概要

日時：平成25年8月2日（金） 14時～16時

場所：都庁第一本庁舎42階特別会議室A

委員出席者：10名（代理出席2名含む）

- ・ 前回委員会における再検討路線（案）一覧表及び、選定路線（案）一覧表に記載の路線名称原案等について、討議した結果、原案どおりで一旦取りまとめることとなった。
- ・ 次回委員会において、これまでの検討結果を「中間のまとめ案」として諮ることとなった。
- ・ 委員からの主な意見は以下のとおり

（前回委員会における再検討路線（案）について）

- 「バイパス」については、道路が出来てから長い期間「〇〇バイパス」と呼ばれ利用されてきた。また、地元でも定着し歴史が積み重なっており、現案のままで良い。
- 「川の手通り」について、台東区内においての慣用名称である「橋場通り」は、古くから定着しており、その区間を除いて「川の手通り」と設定しても、他の関係区も異存は特にはないものと思われる。
- 「多摩モノレール通り」、「モノレール通り」について、地域名である「多摩」が付いていたほうが馴染みのある名称ではないか。
多摩モノレール沿線の自治体では、整備促進に関して建設以前から「多摩モノレール」という名称で使われており、広く定着している。
- 「谷根千通り」の再検討結果について、地域において既に個別の愛称が定着している事実があるのは分かる。ただ、一方、地域振興の側面から将来、通称道路名の設定を考えるべきでないか。

（今回選定路線（案）について）

- 「多摩川南岸道路」について、地元では定着しているということだが、多摩川のどの辺りなのかイメージしにくい面があるのではないか。
「多摩川南岸道路」という名称は、長年使われてきて定着しているということであれば、奥多摩を訪れる人達にとっても認識されるように、PRの仕方も考える必要があるのではないか。

- 「新武蔵境通り」及び「伏見通り」について、途中に市道区間があるということなどから、短い区間で分けて名称を設定しているが、本来1本でつながっている両路線は一つの名称にするほうがよいと思うが、関係自治体の意見もあり、難しいということであればやむを得ない。
- 「新武蔵境通り」や「新府中街道」というように、「新」と付ける場合、かえって利用者にとって紛らわしくなることもあるのではないかと。今後の設定にあたっては、そういったことも認識したほうがよいのではないかと。
- 「城南通り」及び「城北通り」について、「城北」という地域は漠然としていることから、少しイメージしにくい部分がある。パブリックコメントなどを活用して都民の意見を聴きながら決めていけばよいのではないかと。

以 上